

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								4.0
Q1 室内環境			0.40					3.8
1 音環境		3.2	0.15					3.2
1.1 騒音		3.0	0.40					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0				
1.3 吸音	主たる事務室は天井:ロクウール吸音板、床:タイルカーペットを採用	4.0	0.20	3.0				
2 温熱環境		3.2	0.35					3.2
2.1 室温制御		3.5	0.50					
1 室温		3.0	0.38	3.0				
2 外皮性能	窓:Low-Eガラス+ブラインド及び庇、屋根、外壁へ断熱を計画	5.0	0.25	3.0				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0				
3 光・視環境		4.1	0.25					4.1
3.1 昼光利用		4.2	0.30					
1 昼光率	昼光率2.5%以上確保	5.0	0.60	3.0				
2 方位別開口			-	3.0				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0				
3.2 グレア対策	直射光が当たる窓面のグレア対策のため、建物外周部へ庇を計画	4.0	0.30					
1 昼光制御	窓開口部へブラインドを設置、及び庇を計画し昼光を制御した計画	4.0	1.00	3.0				
3.3 照度		3.0	0.15	3.0				
3.4 照明制御	一連のデスクによる作業単位で照明制御を計画	5.0	0.25	3.0				
4 空気環境		4.7	0.25					4.7
4.1 発生源対策		5.0	0.50					
1 化学汚染物質	使用建材はF☆☆☆☆を採用。VOC放散量が少ない建材に配慮。	5.0	1.00	3.0				
2 アスベスト対策			-					
4.2 換気		4.0	0.30					
1 換気量	換気量30m ³ /h人以上で計画	4.0	0.33	3.0				
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0				
3 取り入れ外気への配慮	外気は汚染源のない、また、排気口のない屋上から取入れと計画	5.0	0.33	3.0				
4.3 運用管理		5.0	0.20					
1 CO ₂ の監視	外調機へCO ₂ 制御を計画し、CO ₂ を中央より常時監視	5.0	0.50					
2 喫煙の制御	建物全体を禁煙と計画	5.0	0.50					
Q2 サービス性能			0.30					4.1
1 機能性		4.0	0.40					4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40					
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0				
3 バリアフリー計画	建築物移動円滑化基準を満たす計画	4.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30					
1 広さ感・景観	事務室CH=2.8mとし、窓を設置と計画	4.0	0.33	3.0				
2 リフレッシュスペース	執務スペースの約2%のリフレッシュスペース及び自販機設置を計画	5.0	0.33					
3 内装計画	内観ベースによる内装計画を事前実施	5.0	0.33					
1.3 維持管理		4.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	風除室確保、溶融亜鉛メッキ・フッ素樹脂塗装、防汚性仕上材の採用	5.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	専用部以外の諸設備は共用部より作業できることとし、フロア毎に清掃用流し等計画。	4.0	0.50					
3 衛生管理業務			-					
2 耐用性・信頼性		4.5	0.30					4.5
2.1 耐震・免震		5.0	0.50					
1 耐震性	建築基準法の50%増の耐震性を有する	5.0	0.80					
2 免震・制振性能	免震装置の採用	5.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:タイルカーペット20年、壁:石膏ボード30年、天井:化粧吸音板30年	5.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	外部露出部ダクト等ステンレスダクトを採用	5.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	「衛生給水:VLP(B)」「衛生排水:VP(B)」を採用。Eは不採用。	5.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔	発電機、受変電設備(屋内キュービクル)、吸収式冷温水発生器、FCU等採用	4.0	0.20					

2.4 信頼性			4.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	建物として免震構造を採用、吊配管等災害時の対策を考慮	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	中水(雨水)の再利用を計画。	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電機せつびの設置、また、電源車対応を計画	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	免震建物であり、時刻歴応答解析により耐震クラスS相当で計画	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブル、マルチケーブルにより通信の多様化を計画	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	基準階階高4.1m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比=0.179	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		事務室積載荷重:4500N/㎡(柱・大梁用 1800N/㎡以上)	4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく、更新・修繕可能なよう計画	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺及び遠くからの良好な視点を形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	自治体開催の講習会等、会議室の利用提供ができる施設	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	敷地内へ緑地を積極的に設け、温熱環境の向上に貢献	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.809	4.9	0.20	-	-	4.9
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.84 住宅(専有部) -	4.2	0.50	-	-	4.2
集合住宅以外の評価(3a.3b)		中央熱源空調方式とし外気冷房制御、流量制御など空調システムを構築	4.2	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			4.2	0.20	-	-	4.2
1.1	節水	自動水栓及び泡沫水栓を採用、節水型大便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.4	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水再利用設備を計画、雨水利用率20%以上	5.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント	5.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	吸音材・ソーラトン、ビニル系床材・エスリューム、OAフロア・FPR3000	5.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げが比較的容易、また、事務室はOAフロアを採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料の選定	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率90%	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1	大気汚染防止	ガス及び煤塵濃度が排出基準値より大幅に抑えられた機器を採用	4.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な台数の駐輪・駐車場の確保、また安全を考慮した出入り口の確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制	1つ厳しい日影規制の基準を満たした計画	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」項目の過半を満たす、広告照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	